

人と人がつむぎ出す、

絆の貴さ

今年の夏ほど「絆」の貴さを実感した年はないだろう。人と人がつながること、町が動き出す：：活気が生まれ、にぎわいが生まれる。みんなの心をつむいだ「夏の絆」の数々をレポート

8月12日

井川線復旧

会場 千頭駅ホーム

井川線が観光シーズンを前に全線復旧 秋からの集客に大きな期待寄せる

夏休みシーズンだった中の8月12日、約1年間にわたって一部区間が不通となっていた井川線が全線復旧を果たしました。同日、千頭駅ホームでは復旧を記念した式典が開かれ、多くの人が喜びを分かち合いました



多くの「おめでとう」が寄せられた記念式典

昨年8月28日に発生した土砂災害によって一部区間が不通となり、千頭―奥泉間がバスによる代行運転を続けていた大井川鐵道井川線。このほど復旧工事が完了し、全線運行を再開しました。同日、この全線復旧を記念した式典が大井川鐵

道千頭駅ホームで開かれ、関係者、来賓、招待された親子連れなどが顔をそろえ、喜びを分かち合いました。午前8時から始まった式典では、大井川鐵道株式会 社伊藤秀生社長のあいさつに始まり、来賓から一言ずつ運転再開を祝した「おめでとう」のメッセージが寄せられました。来賓として招かれた佐藤



1 全線再開を祝したテープカット 2 両国車両部の作業員に感謝状が贈られた 3 記念列車に乗り込む招待客 4 発車を待ちわびる笑顔の子



3 式典終了後には、この日朝8時55分に出発するトロッコ列車に、全線再開を記念したヘッドマークが掲げられました。

なければなりません。今後も安全対策には最大限配慮し、大井川鐵道固有の資源である「SL」「トロッコ列車」の魅力を大に発信し、地域観光振興に役立てていきたいと考えています。



大井川鐵道株式会社 伊藤秀生 代表取締役社長

安全に最大限配慮。地域の観光振興に役立てていきたい

昨年発生した土砂災害によって通行不能となった一部区間について、多くの各関係機関のご協力により、無事災害復旧工事が完了。晴れて全線再開の日を迎えることができました。これまで千頭―奥泉間は、バスによる代行運転によって観光客や地元住民の足を確保してきましたが、乗り換えの負担はどうしても避けられないものでした。今後、奥大井の魅力をストレスなく提供できることとなり大変喜ばしく思っています。井川線は、沿線の自然景観を楽しんでいただく観光路線ですが、その分、自然の驚異とも歩調を合わせ

この日に併せて初のお目見えとなった車輛「スロフ317号客車」を製作した両国車輛部の作業員たちには、伊藤秀生社長から感謝状が贈られました。

※井川線トロッコ列車の車輛は、一般的な列車より小さな車体のため、手作りで製作されています。

式典の最後には、伊藤秀生社長、佐藤公敏町長、中部電力大井川電力センター金原俊也所長、招待された子ども代表の山下裕翔くん、石川想大くんの5人によってテープカットがなされ、出席者全員の大きな拍手で再開を祝いました。式典終了後には、この日朝8時55分に出発するトロッコ列車に、全線再開を記念したヘッドマークが掲げられました。

8時55分が近づくと、場内にアナウンスが流れました。「ご利用ありがとうございます。この列車は5両編成の井川行き。各駅に止まります。終点井川駅には10時41分に到着します。皆さまご乗車ください」。招待された親子連れ、来賓、関係者と続いて列車に乗り込みました。

8時55分を迎えると、トロッコ列車は大きな汽笛を一発。ホームに残ったキャラクターとブルルに見送られ、子どもたちのたくさんの笑顔を乗せて、終点井川駅へと走り出しました。



4